

何でも読もう会

書物名	『螢川』 宮本輝 著	開催 日時	2020.12.1	推薦 斉藤	
巻・章	全編			出席者	9名
<p>1978年芥川賞作品</p> <p>『螢川』『泥の河』『道頓堀川』と作者の初期の「川三部作」の1つ。</p> <p>作者は1947(昭22)、神戸生まれ。愛媛、大阪、富山で生活経験。</p> <p>昭和37年の富山が舞台。中学2年の思春期の少年が主人公。性への目覚め、大人の現実世界、複雑な家庭環境などに囲まれながら、少しずつ成長していく姿を描き出していく。</p> <p>きれいごとでは済まない世の中だが、少年の目を通すと透明感。</p> <p>それが雪国・富山の風光の中で際立ってくる。</p> <p>最後に見る螢川の螢が圧巻。螢川とは、富山市を流れる常願寺川の支流・いたち川のこと。</p> <p>→読後の評価 高かった。螢が何を象徴するかで楽しい議論となった。</p> <p>芥川賞作品もこの位高質だと毎回取り上げてほしいとの声があった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					